

エルサルバドル政治経済月報 (2024 年 9 月)

2024 年 10 月
在エルサルバドル大使館

内政

1. アリアサ・チカス国家文民警察長官の殉職（国家文民警察 SNS 他）

9 月 9 日、ラ・ウニオン県で発生したエルサルバドル空軍ヘリコプター墜落事故により、アリアサ・チカス国家文民警察長官、オマール・ガルシア国家文民警察局長、ロメロ・トレス国家文民警察調査局長、元サンタビクトリア信用金庫（COSAVI）のマヌエル・コト容疑者、軍人 4 名及び新聞記者 1 名、計 9 名が死亡した。

2. 最高裁判所長官及び判事の選出（9 月 24 日付主要各紙）

9 月 23 日、議会において、新思想党 (NI) 推薦の最高裁判所判事 7 名の選出及び宣誓が行われた。最高裁判所長官にはヘンリー・アレクサンデル・メヒア氏が選出され、任期満了は 2027 年 11 月 27 日予定。NI による推薦は、キリスト教民主党 (PDC) 及び国民団結党 (PCN) を含む 57 票の投票によって可決した。他方、国民共和同盟 (ARENA) 及び VAMOS は候補者選出プロセスの不透明性を訴え棄権した。

外交

1. ヒル外務大臣のイタリア訪問（9 月 4 日及び 5 日付外務省プレスリリース）

ヒル外務大臣はイタリアを訪問。ジョルジョ・シッリ外務・国際協力大臣との外相会談では、政治対話、協力、ビジネスなどの分野における達成された成果を強調するとともに、経済、文化、観光、インフラストラクチャーなど、共通の関心事を通じた共同作業の新たな機会を確認した。また、アントネッラ・カバラリ・イタリア・ラテンアメリカ研究所 (IILA) 事務局長との間で、持続可能な観光開発プロジェクトへの資金提供について意見交換。また、更に、ヒル大臣は、シンディ・マケイン世界食糧計画 (WFP) 事務局長と会談し、ブケレへの信頼と 1 億 2900 万米ドルにのぼる国別戦略計画 (GSP) 2022-2027 の実施について感謝の意を表明。

2. IAEA 総会出席（経済省 SNS）

9 月 16 日～20 日、エルサルバドル政府は第 68 回 IAEA 総会に初参加した。アルバレス経済省エネルギー・炭化水素・工業局長は、スピーチで「エルサルバドルは、国際基準と IAEA との合意に準拠し、自国のエネルギーマトリックスに原子力エネルギーを組み込む

ことを約束する」と述べた。また、同局長は、「エルサルバドルはブケレ大統領による「経済推進と国民生活の変革」というビジョンの一環として、原子力の国となるための「正しい道」を進んでいる」とした。これに対し、グロッシーIAEA 事務局長は、「エルサルバドルは小型モジュール炉 SMR に関心を持っている」と発言した。

3. 第 79 回国連総会一般討論演説（大統領府 SNS 他）

9 月 24 日、ブケレ大統領は、第 79 回国連総会一般討論演説を行った。ポイントは以下のとおり。

(1) エルサルバドルは、「世界の殺人の中心地」から西半球で最も安全な国となり、真に独立し、かつ完全な自由への道を歩んでいる。

(2) 今日の世界は、言論の自由や私的財産の尊重等の原則も侵食され、もはや自由ではないが、エルサルバドルではこれらの原則が尊重されている。

(3) 我々は犯罪者の快適さよりも誠実な市民の安全を優先、何千人も投獄したというが、実際には何百万人の市民を解放している。

4. 日本からの無償資金協力に係る交換公文の承認を要請（9 月 25 日及び 26 日付主要各紙）

外務省は、議会に対し、日本政府との間での無償資金協力（「デジタル教材製作推進計画」及び「人材育成奨学計画」）に係る交換公文の承認を求める要請書を提出。

5. 米国ピースコープの再開（9 月 26 日～28 日付主要各紙）

2016 年に治安問題を理由に撤退していた米国ピースコープが再開、8 人のボランティアが公衆衛生、農業、地域経済開発、青少年育成の分野で活躍する。

経済

1. 独立記念日大統領演説（2025 年均衡予算について）

9 月 15 日、ブケレ大統領は、203 年目の独立記念日における大統領演説において、9 月 30 日に議会提出する 2025 年の通常予算には対外債務を含まないと発表した。数十年ぶりに、対外債務を必要としない、完全な自主財源による予算案を議会提出するとし、エルサルバドルは今後、年間生産額以上に支出することはなく、ブケレ政権以前の政権から引き継がれた債務の利子を支払うために債務を重ねることもしないと加えた。これにより、頑健な経済を築き、平和・治安・安全があるだけでなく財政的に自立した真の独立国を目指すとした。また、治安改善に第一期の 5 年間をかけたように、経済再生には時間がかかると述べ、理解を求めた。

2. ビットコイン法定通貨化 3 周年（9 月 8 日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

9 月 7 日、エルサルバドルはビットコイン法定通貨化から 3 周年を迎え、ラ・リベルタ県エルソンテ「ビットコイン・ビーチ」では祝賀イベントが開催された。このイベントにはビットコイン・ビーチの創設者ロマン・マルティネス氏その他、ピネダ教育大臣、アギニャダ観光協会（ISTU）会長、ハーバート・ビットコインオフィス所長、カイザー・ビットコインアドバイザーらが参加した。ピネダ教育大臣は、「公教育において金融教育を進展させており、既に 2 万人の教員がビットコインに関する研修を受講し、教室で使用するリーフレットも作成した。ビットコインのテーマをカリキュラムに組み込むために取り組んでいく」とコメントした。

3. 緊急地震速報アプリの導入（9 月 26 日付ディアリオ・デ・オイ紙）

9 月 25 日、環境省は緊急地震速報を発する携帯電話用アプリケーション「アレルタ・デ・シスモ（Alerta de Sismo）」を発表。本アプリは、「中米における地震早期警報（ATTAC）」プログラムの一環として周辺諸国及びスイス開発協力庁（SDC）による資金協力によって導入された。

4. 2025 年国家予算案の提出（10 月 1 日～4 日付主要各紙）

9 月 30 日、来年度予算が議会提出された。この予算案は、9 月 15 日当国独立記念日におけるスピーチにおいて、ブケレ大統領が述べた均衡予算として注目されていたもの。ポイントは以下のとおり。

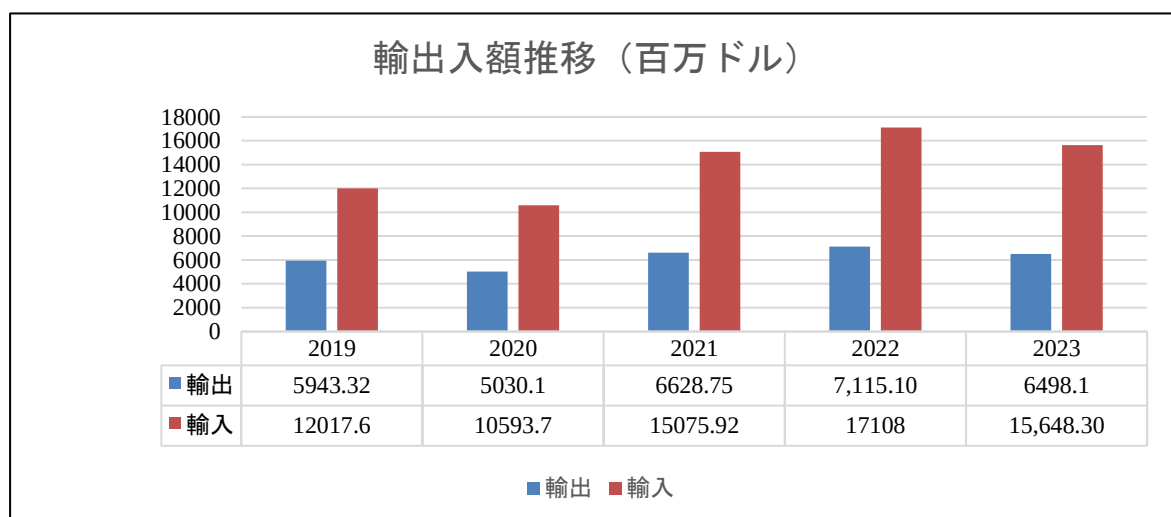
(1) 予算総額は昨年比約 9 億 7,000 万ドル増の約 96 億 6,200 万ドル。歳入のうち、経常収入 82 億 500 万ドル、借入金 12 億 300 万ドル。歳出のうち、経常支出 63 億 6,200 万ドル、設備投資等 18 億 800 万ドル、公債償還 12 億 6,200 万ドル。

(2) 税収額は、昨年比 7 億 4,700 万ドル増の 76 億 7,740 万ドルを計上。

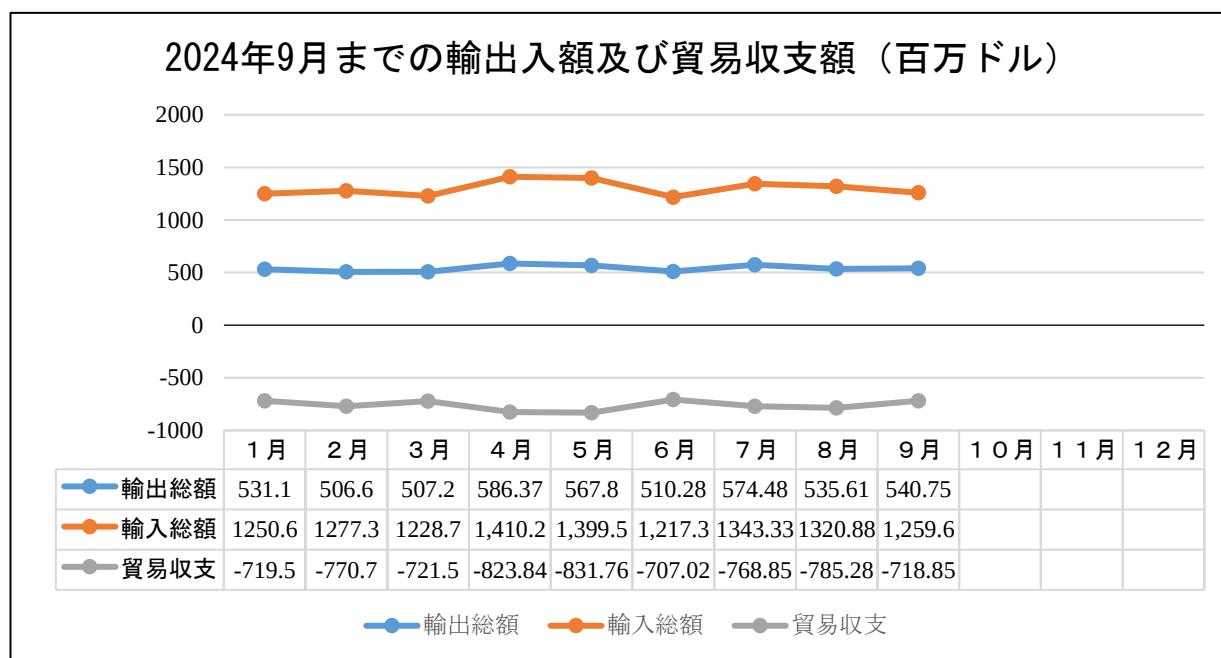
(3) 戦略的セクターのうち、教育は 15 億 3,500 万ドル（▲2.21%）、保健は 11 億 7,000 万ドル（▲7.3%）、司法・治安は計 5 億 8,900 万ドル（▲2.6%）と削減された一方、防衛は 3 億 1,400 万ドル（+20.25%）となった。

5. 貿易総額

2023 年の輸出総額は 64 億 9,810 万ドル（前年比 8.7%減）。輸入総額は 156 億 4,830 万ドル（前年比 8.5%減）となった。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

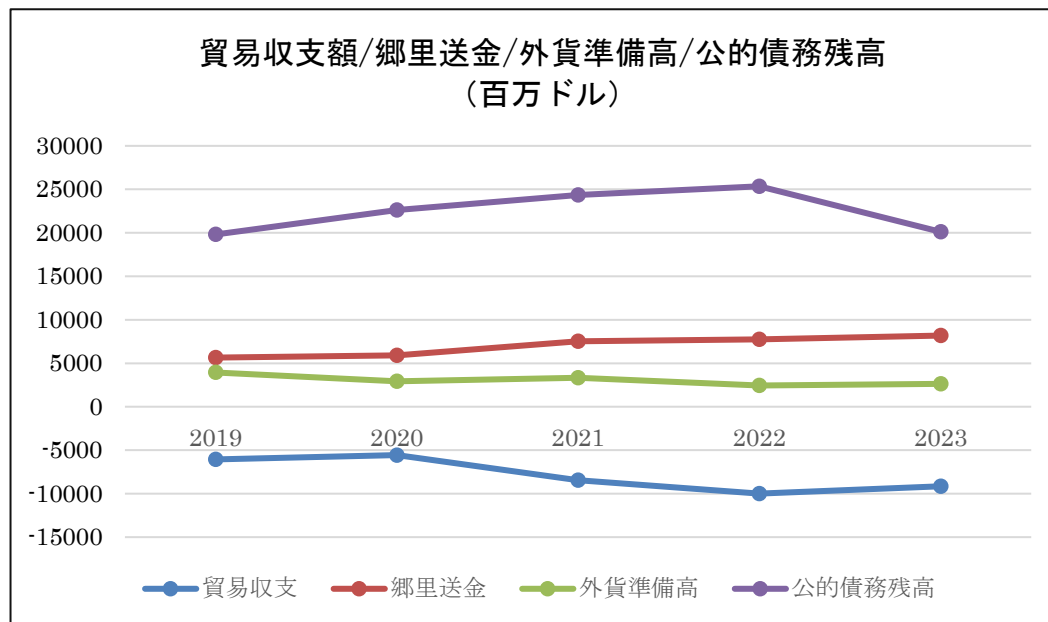


（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

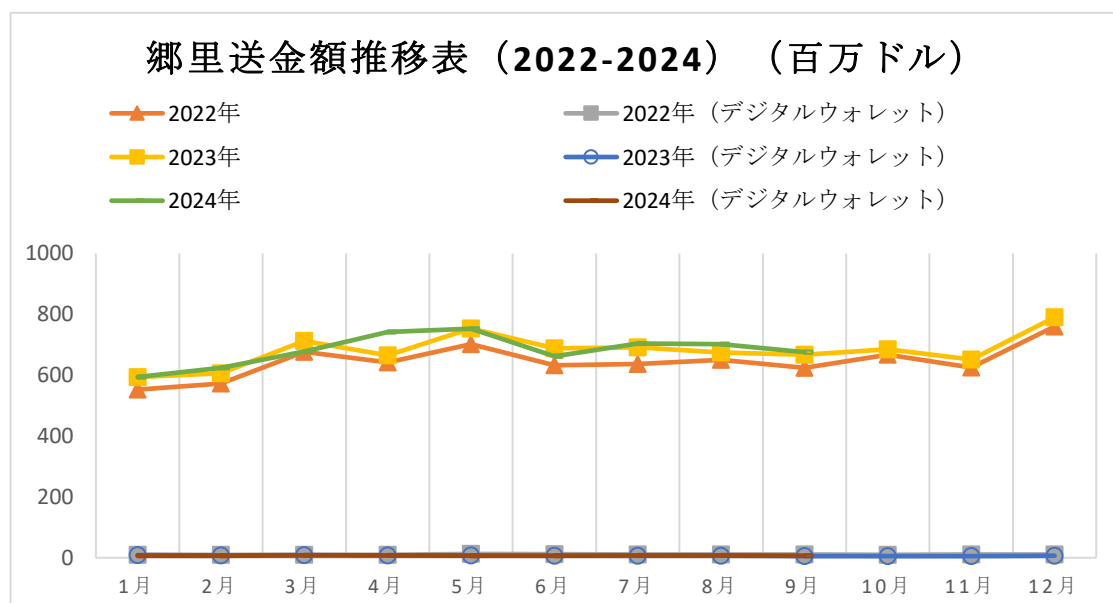
6. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

- ・2023 年の貿易収支額はマイナス 91 億 5,020 万ドルとなり、前年より赤字額が 8 億 4,270 万ドル縮小した。
- ・2023 年の郷里送金額は 81 億 8,180 万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の

93.0% (76 億 620 万ドル) を占めた。



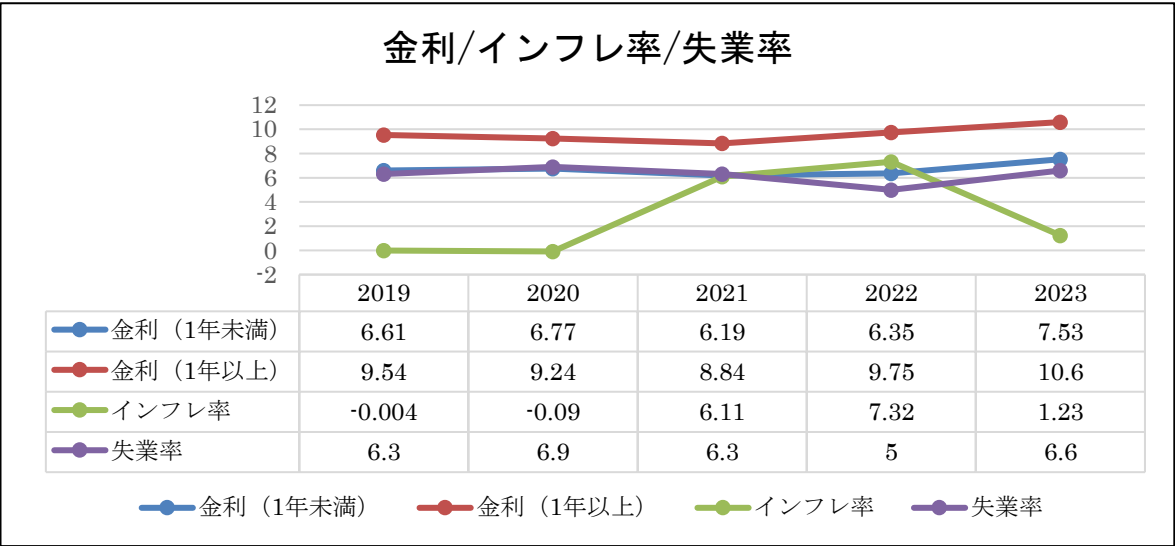
(エルサルバドル中銀データをもとに作成)



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

7. 金利・インフレ率

2023 年のインフレ率はプラス 1.23%であった。また 2022 年のインフレ率はプラス 7.32%であった。2022 年の失業率は 5.0%であった。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）